

春爛漫 躍動の季節到来

新学期始まる

ピカピカのランドセルを背負った一年生、新しい学年への進級、胴上げされる入試合格者、厳しい就職戦線を勝ち抜いて社会人への第一歩、それぞれが希望に満ち胸をふくらませる躍動の春がやってきました。私たちの『中国語を学ぶ会』も新しい10数名の同学们を迎えて、ますます充実した新学期を迎えることができました。

私たちの会は、公民館活動・社会人生涯教育の一環として活動しておりますのであたたかも山間僻地の分校のように、1年生も5年生も10年生も、みんな一緒に学習しております。従って、改まって新学期という感じは薄いかもしれません。

会員の構成も、高校生から高齢者まで、その職業などもさまざまです。仕事を持っている方にとっては時間的に大変なことかと思えます。家庭の主婦の方にとっては、夕ご飯の準備などにご苦労も多いことでしょう。

そこで私の提案

せっかく「中国語を学ぶ会」に入会し、忙しい時間をやりくりしながら学習会に出席しても、教室が三つに分かれているため、会員でありながら顔もわからず名前も知らずという人たちが多くはないでしょうか。

勉強することが目的であることは勿論ですが、会員相互の親睦をはかる機会がちょっと少ないような気がいたします。

年齢も職業も経歴も、そして趣味も異なり、お互い利害関係のないグループの利点を大いに活用したいものだと考えています。その為には、会が催す諸行事には積極的に参加していただきたいし、もし時間が許せば勉強会の後でお茶でも飲みながら雑談をすとか、三つの班が合同で集まる機会を設けるなどの方法が無いものかと思っています。一部の役員が企画しても結局参加者は限られてしまいます。もしこのような趣旨にご賛同いただけるならばクラス委員を中心にして、皆さんからの盛り上げりを期待いたしたいところです。これに対するご意見がございましたらどうかお聞かせください。

(神 山)



「中国の小学生はどう中国語を覚えるか」を読んで

星期二班 川端英一

中国語学習者400万人待望の一冊[中国小学生怎么学习中文]という、私たちの強い味方になってくれそうな本が今年発刊されました。

(著者 李凌燕 編者 入交みづ 発行所 はまの出版 定価 1500円+税)

著者の李凌燕さんは、1958年北京で生まれ、1986年から母校の北京師範大学対外漢語教学センターで、外国人留学生に中国語を教えていました。1990年来日し、中国語講師を勤めたあと、娘を北京の学校で学ばせるため、1997年に帰国し、母校に復職し現在に至っています。さて、日本で生まれ育ち、帰国後1年目に北京の市立小学校に入学した娘；本名汪海曦愛称「東京ちゃん」7才は、変わった学習法で国語を勉強し始めました。

中国の小学校では、日本の中国語学習法とは違って、[拼音]（ピンイン）、発音、単語を歌や遊びで、合理的に覚えさせる方法をとっています。東京ちゃんは、毎日、家でもピンインの[順口溜 shùnkǒuliū]（語呂あわせの一句一句、どれも楽しい内容）と[儿歌 érgē]（童謡）を口ずさんで、のびのび楽しく学んでいます。[順口溜]と[儿歌]は、小学生がより厳密なピンインを訓練するうえで、きわめて重要なはたらきをしています。

いままで、このピンインを使って、初めて中国語を学ぶ外国人留学生を教えて来た著者の感想では、自分が学んだり教えたりしているピンインの授業は、どうも理屈っぽく無味乾燥の気がしたそうです。

これを見て、この方法を外国人へも利用できないかと考えた著者は、娘の通う小学校1年生のクラスに、入れてもらうことを思いつきました。著者の小学生時代は、文化大革命に明け暮れ、不幸にしてピンインの授業を充分受けられなかったことと、娘の特殊事情も、動機づけの一つだったようです。熱意が認められ、著者は「見学の教師」という立場で娘のいる1年生学級への入室が許可されました。

ベテランの学級担任教師も、語学のプロの母親の聴講には、当初、少し迷惑顔であったようですが、著者は、子どもたちの理解度を暖かいまなざしで観察して、どこが間違え易いのか分析しているところは、さすがだと思いました。

本書は、北京の市立小のほか、師範付属小、私立小など、いくつかの小学校に見学者という立場で取材調査した結果と、外国人に中国語を教えた経験をもとに、中級レベルの学習者向けに書かれた参考書です。ピンイン学習法のほか、漢字の覚え方、話し言葉の表現と朗読の大切さ、単語、成語、ことわざ、しゃれ言葉についてそれらの具体的な例を沢山紹介しています。そのほか、中国語の背景にある中国の社会や日中文化の比較も紹介しています。

内容は盛り沢山で、一気に読める本ではありません。しかし、私たち日本人に、とても参考になる、日本人が間違いやすい漢字などの個所もあります。

ちなみに、東京ちゃんをモデルに「中国の子供はどう中国語を覚えるか」という初級レベルの姉妹書も1996年に（はまの出版）から定価1500円で出ているそうです。

話は変わりますが、私の手元に台湾の幼稚園児・國小一年生向け[正音ㄅㄆㄇ]（正しい字音のポポモフォ）；小馬哥（株）というビデオテープがあります。表音記号の書き方と発音が楽しく合理的に学べるよういろいろ工夫されています。台湾の表音は、ローマ字のピンイン（bpmfdtnl）、でなく「注音符號」（ㄅㄆㄇㄉㄊㄋㄌ）ですが、アニメーション（動画）を使って、声母bpmfdtnlの発音の仕方を唇の形のほか、口腔内（舌の位置と形、呼吸の流れ）の様子を図示し分かり易く教えています。私は、中国語入門時、ほんの少しだけですが、発音の復習に使用したことがあります。

楽しみながら合理的に中国語を勉強するという「中国の小学生はどう中国語を覚えるか」のバックボーンとなる創意工夫の思想に、私は共感を覚えました。

平塚を離れるに当たり「中国語を学ぶ会」

の皆様にお礼申し上げます

星期三班 友田あや子

私が中国語を学び始めたのは、'96年4月からです。もう3年になりました。その間、何度も辞めようか、どうしようかと思ひ悩む事もありました。しかし、どうせ家に帰ってもテレビを見て、ボーとしているのなら、週一回だけでも頑張ろうよと、水曜クラスの人たちに助けられ、又、励まされて今日までやっとなつてきました。

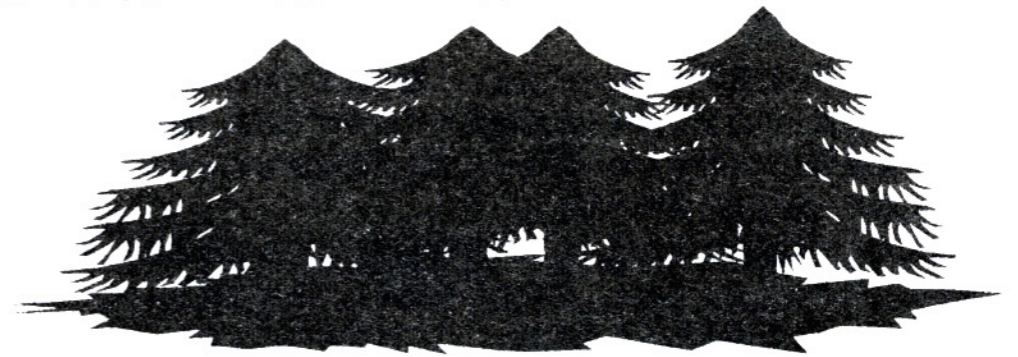
学ぶと言うより、クラスの人たちとお会いして、色々なお話を聞くだけでも楽しみでした。時には、旅行された人よりお土産のお菓子などを頂き、会社での仕事の疲れや、いやな出来事も忘れられ、息抜きのつもりで通ったように思います。学び始めてすぐ、北京旅行にご一緒させて頂き、「你好」「谢谢」ぐらいしか話すことが出来ず先輩方のお話している様子を羨ましく拝聴するだけでした。一人ではとても行くことが出来ない所など見せて頂き、本当に皆様には感謝しております。

又、昨年には台湾旅行にもご一緒させて頂きました。前回よりはもう二、三言話すことが出来たかしら……

一言でも多くお話できるよう、もっと学びたいのですが、今度、母の介護のために故郷（仙台）に帰ります。

長い間いろいろ本当にありがとうございました。仙台の方へお出かけの時には、ご連絡下さいますよう、お待ちいたしております。

皆様もお体ご大切に、勉学・旅行にお励みください。また何かありましたら仙台の方からお便りしたいと思っております。



友田さんは、そのお人柄から皆さんに慕われ、お勤めの傍ら熱心に学習され旅行や行事にも積極的に参加されておりましたのに、お別れしなければならないのは本当に残念です。お母様の介護のためとは言え、住みなれた平塚を離れ故郷の仙台へ帰られるのは決断が要ったのではないかと思います。お母様も娘さんと一緒に暮らせるのできっと喜んでいらっしゃるでしょう。しっかり親孝行してください。そして、せっかく始めた中国語ですから杜の都仙台の地でもぜひ続けてください。同学们一同あなたとお母様のご健勝をお祈りしております。

アカシアの大連・旅順訪問記（3）

星期三班 野中矩仁

（13）商場（マーケット）露店巡り

観光の合間に商場や道端の露店をのぞいた。商場と言ってもデパートの食品売り場のようなものから日本のスーパーや戦後のマーケットのようなものまでまちまちである。

いずれにしる野菜や果物、魚介類は新鮮で安い。おおよそ日本の十分の一から二十分の一ぐらいであろうか。例えばトマトが1キロで50円だし、イチゴがポリ袋に一杯で50円（日本では1000円分ぐらい）、豚肉に至っては五十分の一ぐらいであった。

もっとも大卒の初任給がいろんな手当を含めても1万円ぐらいだそうであるから、そんなに安いとは言えないのかもしれない。

2、旅順

（1）旅順の概況

ご承知のように、旅順は日清・日露両戦争の舞台である。1880年に清朝が軍港を開いて以来ロシアのものになったり、日本のものになったり、そして現在は大連市の一部であり中国の重要な軍港である。60歳ぐらい以上の方なら、自然に「水師營の歌」や「旅順港の歌」が口をついて出てくるものと思う。

昨年6月末までは外国人には未解放であったが7月より一部（水師營と二百三高地のみ）が解放になった。ただし今回は特別の許可を得て（案内人がバスに同乗して）東鶏冠山にも行くことが出来た。

（2）水師營

かつて「庭に一本ナツメの木……」という歌で有名であった乃木大将とロシアのステッセル將軍との会見場が在った旅順郊外の田舎町である。昭和17年に行った時には会見場もナツメの木も確かに在ったが、現在は影も形もなく、平屋の倉庫に囲まれた庭の一角がその場所であるという。

中国人ガイドの話によれば、日本の敗戦後間もなく会見場は取り壊されナツメの木も切り倒されたそうである。最近それを復活して乃木大将とステッセルの蠟人形を置こうという計画もあるそうだが、これには反対の声もあり、また最近の若者は全く関心がないので、実現するかどうかは分からないとのことである。然も有りなんと思う。

（3）二百三高地

日露戦争時の激戦地の一つであるが、今は灌木の生い茂った小高い山（標高203メートル）であり、そののどかな景色は全く日露の兵士の夢の跡である。

頂上のすぐ下の広場までバスで行ったが、そこには日本人観光客目当ての店があり、「いらっしやいませ、おみやげ店」と書いた看板を掲げていた。

頂上には乃木大将の命名による「爾靈山」と書かれた砲弾型の慰霊碑が昔のままに立っていた。ここから見ると旅順港は遙か彼方5～6キロ先に巾着のような狭い港口

を覗かせて広がっている。港口の幅はわずか200メートルというから、広瀬中佐ならずともここを閉塞すればロシアの軍艦を閉じ込められると思うのは道理である。

なお頂上の下の山中には今も乃木大将の次男（保典）の戦死の碑が残っているそうであるが、ここには行く時間的余裕が無かった。しかし日露戦争時の慰霊碑が今も残されていることに意外性を感じるとともに、中国人の心の大きさも感じた次第である。何故ならば日清戦争は勿論のこと日露戦争でも付近の住民の被害は相当大きかった（全滅した村もある由）そうだからである。

ここから東鶏冠山へ向かう途中旅順市街を通ったが、バスを止めて降りることは許されなかった。なおかつての旅順工科大の建物や旅順駅は今もそのままに残っていた。

（4）東鶏冠山

ここも日露戦争の激戦地の一つであるが、特に分厚い（1～2メートルもある）コンクリートで造られたロシア軍の兵舎やトーチカが有るので、昔から観光地になっていた。コンクリートの壁には日本軍の砲弾の跡が無数にあり、あちらこちら壊されていた。このトーチカは山の斜面に隠れるように巧妙に造られていたので、山の下から攻め上って来た日本軍はトーチカの上を越えた途端、背後から一斉射撃を浴びて戦死者が山をなしたそうである。

ここにも日本軍の慰霊碑やロシア軍将校の慰霊碑が在ったが、更には日本軍がいかに残虐であったかを写真と説明書きで示す「日露戦争展示館」があり、我々日本人にとっては歴史的事実としてもあまりよい気持ちでは見られなかった。

展示館の外に出て、きれいに咲いたアカシアの花を見るとホットしたのが正直な話である。

以上

<三回に分けて連載した野中さんの大連・旅順訪問記は今回で終了です>

推 敲

よく「文章を推敲（すいこう）する」と言います。この推敲を私の中国語辞典で引いてみましたら『推敲 tuīqiāo 繰り返し文章を練り直す・字句を練る』と載っていました。推は押す、敲はたたく・打つという意味を持っており、敲门（ドアをノックする）などと使われています。それでは押したりたたいたりすることがどうして文章に手を加えて練り直すことになるのでしょうか。

唐代の詩人賈島 jiǎdǎo が「僧推月下門」 sēng tuī yuè xià mén 僧が月下に門を推すという句をつくりました。ところが賈島は推門より敲门のほうが良いのではないかと悩み始めました。「推」か「敲」かと考えながら歩いていると、ぼったり韓愈に出会いました。<韓愈 hányù 唐中期の儒者、文学者、詩人> そして韓愈の助言によって結局「僧敲月下門」に決めたと言われています。

この故事に因んで、文章や詩をつくるのに字句や表現をさまざまに練り直すことを「推敲」と呼ぶようになったのだそうです。

（神山）

北京から「胡同」が消える

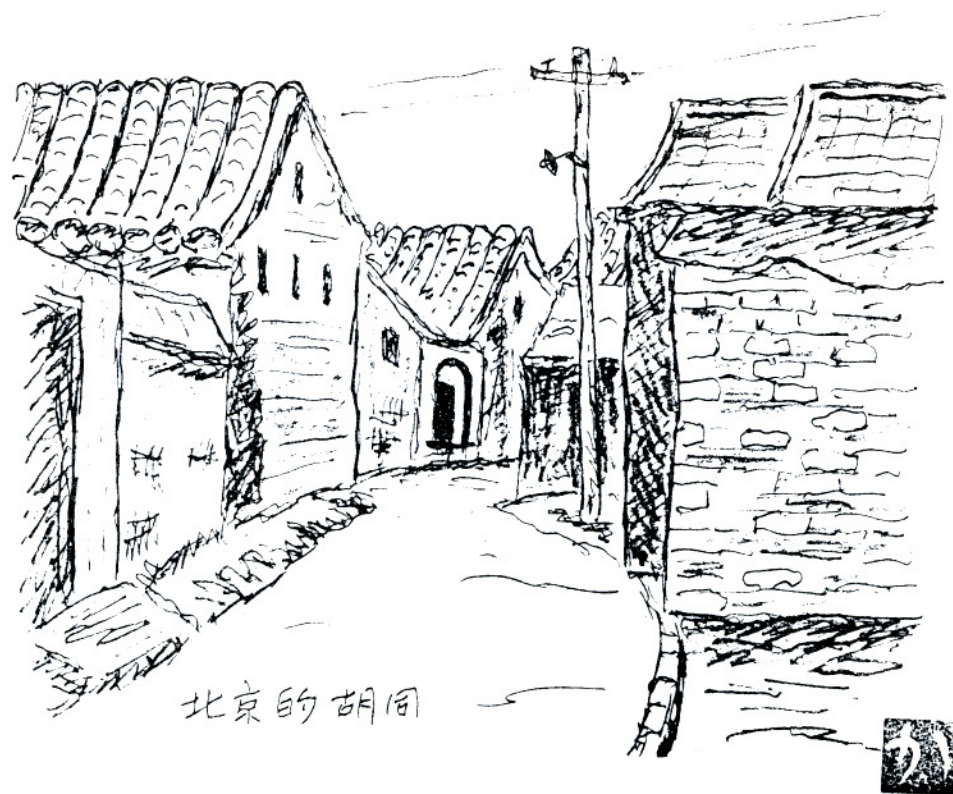
北京は近代都市へ脱皮するため、急速に変わりつつある。そのために歴史のある古い街並みは取り壊され、味も素っ気もない高層ビルに建て替えられてしまう。

北京の古い面影を残しているのは「胡同」だ。あのくすんだ色合いの漆喰の塼と壁。どっしりとしていて、丸みをもった破風の瓦屋根。左右に「鎮石」（魔よけ）を置いた門構え。窓は高いところに造ってあるが、明るい陽の光を受けると路地横丁独特の風格を見せてくれる。

'96年の秋に「中国語を学ぶ会」だけで手作りの北京旅行に行った。その時北海公園のそばで、同行のMさんの気分がちょっと悪くなり、近くの胡同に住むおばさんの家で休ませてもらったことがある。言葉も通じない、見ず知らずの外国人を親切に面倒みてくれた厚い人情が胡同には残っていたのだ。

その路地には自転車が積んだいろんな物売りがいた。湯気を立て熱々の黄色い焼き芋、皮をむき串に刺したハミウリ、立ち食いしたあの味が忘れられない。こんな胡同が消えて行くという。寂しいことだ。

次ぎに掲げた中文には胡同の生い立ちや、胡同という名の由来などが書かれている。お暇の折にでも訳してみてもいいでしょうか。



北京の胡同正在消失

北京一家报社的一位记者打算到北京西城区的北魏胡同去采访。但他驾车在附近兜了几圈,却没有找到北魏胡同的影子。一位大娘告诉他:“北魏胡同早拆了!”许多老北京人常常发出这样的感叹:“这不是我的北京了。”因为他们曾经居住,熟悉的胡同已变成了高楼大厦。

“胡同”一词,自元朝就在北京广泛使用。北京市地名办公室的工作人员解释说:“胡同”就是“水井”的意思。古时北京缺水,围绕一口井,往往居住着许多人。人们在修房时会留出一定的通道。住的人越多,通道就越长,胡同就这样形成了。语言学家张清常教授则认为,胡同是汉语吸收了蒙古语中水井的发音“HUTO”,在使用过程中意思有所改变,由“有水井处”转为“街巷”。

胡同这种北京特有的城市小巷,主要围绕在紫禁城周围。明清时期,浩繁有几千条。

而目前直接被称为胡同的街巷仅为九百九十条。胡同是北京历史文化的主要组成部分,北京不只有故宫,长城,天坛等世界级古迹,更主要的是还有反映北京平民百姓生活的胡同四合院。胡同的“消失”,从一个方面说明北京古文化在消失。因此,专家呼吁政府采取措施保护胡同。最近,中国国务院已确定了北京十九条胡同为历史文化保护区。

胡同里的居民对胡同的改造心态各异。一些老住户不愿离开胡同,因为他们依恋那种邻里关系融洽,彼此互相照应的生活。而另外一些人则因胡同里的住环境,供水,取暖等设施较差,急着想住进公寓楼。

我的纽约旅游

星期三班 上课 汉语迷的人

額田 幸也

一月七日离开日本去纽约(niǔyuē)了。我去过纽约几次。

那儿的名胜古迹(míngshèng gǔjì)我几乎(jīhū)都观光(guān guāng)过了。

比如自由女神,摩天楼(mótiānlóu), 联合国秘书处(liánhéguómìshūchù)。

这次主要是看我女儿。她住在那儿。她以前有点儿病了。

但现在基本上病好了。

知道她正在陌生(mòshēng)环境(huánjìng)中奋斗(fèndòu), 心里非常感动了。

一个星期的时间, 她每天带我们到各处参观访问,

无微不至(wúwēibùzhì)地照顾(zhàogù)我们。每顿饭跟他们一起一边聊天一边吃。

这次旅游纽约, 留下很多回忆(huìyì), 尤其是雪景到现在使我难以忘怀

(nányǐwànguáí)。

纽约的冬天真冷, 不小心就容易感冒。

旅行的兴奋劲儿(xīngfènjìnr), 一下子感到很累。

我已于一月十三日安返日本。

* 从东京到纽约大约飞十三个小时。

図書紹介 最新刊 「中国路地裏物語」……市場経済の光と影……
上村幸治著 岩波新書 660円
額田さんのお勧めです。興味のある方は読んでみてください。

バスの最前の席にはもう乗りたくない

バスは曲がりくねったかなり急な下り坂を走っていた。1994年の春、長城観光を終え、これから北京市内観光へと向かう我々のツアー14名の乗ったバスである。

私は一番前、司机 sījī (運転手) の右側の席に座って、フロントガラス越しにビデオカメラを構え、走りゆく外の景色を撮影していた。

その時突然、司机と私の間から白煙が立ち昇った。後部座席の人は火災が起きたのかと思ったそうだ。左足に物凄い衝撃を感じた私は、言葉にならない奇声を発したらしい。私には何が起きたのかとっさには判らなかった。足元を見ると床に暖水瓶 nuǎnshuǐpíng (魔法瓶) が倒れ开水 kāishuǐ (熱湯) がどくどくと流れだしている。

生水の飲めない中国では魔法瓶を持ち歩く習慣がある。それも旧式なもので、古びたコルクの栓がしてあるだけなので、倒れればお湯がこぼれてしまう。

「やけどだ!」とやっと思った。とりあえず靴を脱いだ。後ろの席から「靴下を…」 「早く冷やして……」などいろいろな声がかかる。バスを路肩に停め、ステップに腰を下ろした私は、皆さんからいただいたミネラルウォーターをチョロチョロと左足に注いだ。左足の甲の皮膚はべろりと剥げ落ち、真っ赤な地肌が露出しピリピリと激痛がはしる。

とにかく医者に連れて行ってくれと頼み込み、バスは市街地へと入って行った。私は仲間たちと別れ、現地ガイドにある薄汚ない医院に連れこまれた。中国では日本のような街の診療所が無いらしく、医院といえば病院のことを指す。診察室に入ると、傷の状態を診てから問診があり、薬に対するアレルギーの有無などを尋ねられた。そこで何やら処方箋のような書類をもらい、それを薬局に差し出すとチューブ入りの軟膏と抗生物質の飲み薬を渡され、「急患」と表示のある部屋に案内された。

細い木の根っこのような丸太で作られた台に足を乗せると、30才位の女医さんが私の持参した軟膏を塗り、包帯を巻いて治療は終わり。診療室は薄暗くて、なにか不潔な感じのする部屋でドアも無い。私の診療中に中年の男性が入ってきて、恥ずかし気もなく、やおらズボンを下ろしてお尻を出しはじめた。びっくりして見ていたら、そのお尻にプスリと打针 dǎzhēn (注射) をしてもらっていた。お国が変わると診療の方法も随分違ってくるものだ。

あまり信頼できそうもない医院だったので、もう一度「中日友好医院」という立派な病院に行ってみた。医師が前の医院でどんな薬をもらったかと言うので見せてやったら「これは一番いい薬だ」という。なるほど軟膏の箱には使用前・使用後の写真が載っており、全身80%の火傷が跡形もなく全治できたと書いてあった。帰国後日本で診てもらった先生が言うには、何も付けないで乾燥させるのが一番良いそうだ。

ところで、今回のツアーは北京からウルムチへ飛び、トルファン・嘉峪関・敦煌・蘭州などを巡るシルクロード13日間の旅である。靴も履けないこの足で、あと10日余り砂漠の中を踏破することができるだろうかと心配になった。

団体ビザだから一人だけで日本へ帰るわけにもいかない。北京に一人留まってツアー一行の帰りを待つか、無理を押ししてもツアーに同行するかを選択に迫られたが、なんとか全行程を歩くことができた。素晴らしかったシルクロードのことは又の機会に書かせていただくことにしよう。

(神山)

昔から「櫻切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」といわれている。これは、梅は実を収穫するため、花芽を残して徒長した枝や混み合った枝を剪定し、樹姿を整える。櫻は大枝を切ると、その切り口から腐りやすいので、枝を切らないのが園芸の基本となっていることを言い表しているのである。

拙宅の庭には「佐藤錦」という種類の櫻桃の木が一本植えてある。櫻桃は異なる品種の授粉花がないと結実しないと言われているが、我が家の櫻桃は一株だけなのに、やや小粒ながらもピンク色の可憐なサクランボをたわわに実らせる。この木は孤独を好む変わり者なのか、或いはどこからか風で運ばれてくる花粉で受粉しているのか、木に尋ねたことがないので判らない。

私は馬鹿を承知でこの木の枝を毎年切っている。樹高を抑え枝間に陽光が満遍なく当たるようにしてやるのが、良い収穫を生む秘訣なのだ。しかし枝の切り口には必ず癒合剤を塗布して、雨水や細菌の侵入を防いでいるので枝枯れをおこしたことは一度もない。

四月に入ると新緑が萌えはじめ、花の季節を迎える。「花見に行く」と言えば桜の花を意味することは明らかで、櫻は春の花を代表するものだ。

一時に咲き、一時に散る花の風情は、古くは武士や文人に好まれ、今では日本の国花として定着している。九州から北上する櫻前線がこの辺に到達するのは三月の末から四月の上旬頃になる。日本には十数種の櫻が存在するそうだが、最も多く見られるのは染井吉野である。江戸末期に江戸染井の植木屋から出て、明治の初めから急速に全国に広まったのだと言われている。韓国済州島の原産だとの説もあるようだ。

時期を迎えると、公園・校庭・川の堤などの櫻が一齐に花開く。

時には家庭の庭などでも見かけることがあるが、枝が切れないので大木となり、毛虫が大量に発生することがあるなど庭木としては適当ではないようだ。

櫻の名所は全国各地に存在する。私の印象に最も残っているのは弘前城公園の櫻である。天守閣を囲むお堀端を三千本の櫻が埋め尽くし、まことに壮観であった。数年後あの感激をもう一度と再訪してみたが、開花の時期がずれていた為に見頃を逸し残念な思いをした経験がある。東北では角館のしだれ桜も有名だ。角館に紅枝垂櫻を持ち込んだのは、佐竹藩二代目藩主・義明の妻。京都から嫁入り道具として三本の苗木を運んできたのだと言われる。武家屋敷の庭に届けとばかりに枝を垂れる百年・二百年と齡を重ねた名木、そのうち百本以上が国の天然記念物に指定されている。福島県は三春の滝櫻を見に行ったこともある。三春はあの郷土玩具「三春駒」で有名などころだ。滝櫻は樹齡千年以上といわれ根元周囲十・六米、国の天然記念物指定を受けている枝垂桜である。ひなびた農村は、たった一本の櫻を見るために車や観光バスで訪れた大勢の人でにぎわっていた。

花を見る目的で訪れるというのは、よほど入念に情報を確認して出かけないと空振りになることがある。紅葉の場合もそうだが、花もちょうど見頃に行くのは、とてもむずかしいことだ。

海外で生活する日本人にとって櫻は祖国を思い出す大切なものだったにちがいない。昨年、遼寧省の丹東という街に行った。戦前には多数の日本人が住んでいた街で、当時の神社の跡に造られた公園には櫻の大木がたくさん残っていた。今では春になると、中国人たちの花見で賑わっているそうだ。

さて今年はどこへ花見に出かけようかと考えている。南北に長い日本列島は一ヶ月以上も花の期間に恵まれる。まてよ、遠出するのも好いけれど、湘南平や花水川の堤だって結構すばらしい。灯台下を忘れないように歩いてみよう。

外来語（横文字）固有名詞の中国語表記

星期四班 落合一正

先に外来語の中国語表記には音訳型、意識型、音訳+意味補充型の三通りがあると述べたが、さて外来語の固有名詞、主として人名、地名はどのように表記されているだろうか。

私は来日して2年半になる中国人中学生の日本語指導をしている。彼は小学校6年生の半ばで来日し、この4月で中学3年生になる。殆どできなかった日本語が驚くほど上達し新聞もほぼ読める。話が世界の歴史や地理に及び、中学生なら誰でも知っているような歴史上有名な人物の名が出てくると怪訝な顔をして分からない、知らないと言う。例えば、アレクサンドロス（アレキサンダー）大王とヘレニズム文化、そこで、亚历山大帝 yàlìshāndàdàdì と希腊文化 xīlǎwénhuà と言うと、知っています、分かりますと言う。ギリシャは分からないが希腊なら分かる。外国人名の中国語表記は私も見当がつかないことがしばしばだ。

日本には横文字の音をほぼそのまま表記できる便利なカタカナがあるが中国語にはそれがない。この中学生はこのことで大分苦勞しているようだ。外来語固有名詞の中国語表記は先にあげた3通りの型なのか、それとも何か外に原則があるのか。ざっと見てみると（1）本来の音にほぼ似ているもの（2）全然かけはなれているもの（3）両者の中間にとれるものがあるようだ。さて、それでは実例をあげてみよう。今回は人名、中国語表記と拼音。以下は誰でしょう。

- | | | | |
|-----------|-----------------------|------------|-----------------------|
| 1. 汤姆叔叔 | tāng mù shù shu | 22. 杜鲁门 | dù lǔ mén |
| 2. 伊索 | yī suǒ | 23. 纳赛尔 | nà sài ěr |
| 3. 维多利亚女王 | wéi duō lì yà nǚ wáng | 24. 马利安推涅特 | mǎ lì ān tuī niè tè |
| 4. 莎士比亚 | shā shì bǐ yà | 25. 马可波罗 | mǎ kě bō luó |
| 5. 苏格拉底 | sū gé lā dǐ | 26. 哥伦布 | gē lún bù |
| 6. 贞德 | zhēn dé | 27. 穆罕默德 | mù hǎn mò dé |
| 7. 罗斯福 | luó sī fú | 28. 高更 | gāo gēng |
| 8. 丘吉尔 | qiū jí ěr | 29. 尼采 | ní cǎi |
| 9. 达伽马 | dá jiā mǎ | 30. 方济各纱勿略 | fāng jǐ gè shā wù luè |
| 10. 灰姑娘 | huī gū niang | | |
| 11. 爱因斯坦 | ài yīn sī tǎn | | |
| 12. 卡门 | kǎ mén | | |
| 13. 甘地 | gān dì | | |
| 14. 牛顿 | niú dùn | | |
| 15. 肯尼迪 | kěn ní dí | | |
| 16. 路易十四 | lù yì shí sì | | |
| 17. 林肯 | lín kěn | | |
| 18. 拿破仑 | ná pò lún | | |
| 19. 法布尔 | fǎ bù ěr | | |
| 20. 斯大林 | sī dà lín | | |
| 21. 托尔斯泰 | tuō ěr sī tài | | |

以上30人、1~10はちょっと首をひねり、11~20はすぐ分かる。21~30はその中間。原名は次号に…。

谢谢李 老 师(送词)

星期三班上课 額田幸也

1 月上完了最后一堂课,看着您走进教室,我心里突然涌起一阵离别的寂寞.时间怎么过得这么快呢?

两年多来在您的教导之下,使我们打下了中文的基础,加深了对中国的认识.

您经常是笑迷迷的,很亲切的,可有时也很严的,上课的时候一定要看书,发音,说什么的.惟一遗憾的是自己努力不够,在会话方面始终达不到理想的水平.

今后我还要继续学习汉语,困难是可想而知的,希望您能象以前一样地帮助我.

李老师,谢谢您两年多辛苦地教导我们. 我们盼望再会您.

[二年余りに涉って水曜班で教えていただいた李老師が中国へ帰られました。今後のご発展とご多幸をお祈り申し上げます。]



「にいはお」原稿募集

「にいはお」第6号は7月上旬に発行の予定です。内容は問いません。日頃考えていること、会に対する希望・提案、旅行記などなど、なんでも結構です。寄稿をお待ちしております。
締切りは6月24日(木)まで。

編集を終えて

3月の末には春の嵐が吹き荒れて寒い日が続きましたが皆さまお変わりありませんか。

この「にいはお」がお手元に届く頃には多分桜も見頃になっている頃かと思います。「にいはお」も皆さまのご協力のおかげで、昨年4月に創刊いたしましたから満1年をむかえることができました。

私たちの「中国語を学ぶ会」も、4月からは20名近い新入会員を迎えています。ますます充実発展してまいりました。

この18日には新入会員歓迎を兼ね、中国朋友を交えて恒例の「餃子の会」を催します。全会員が一堂に会する又とない機会ですから是非ご参加ください。

場所 中央公民館1F調理実習室
会費 800円 午前11時から